

ケースセミナーの利点（上位三つ、スタッフ12回答）

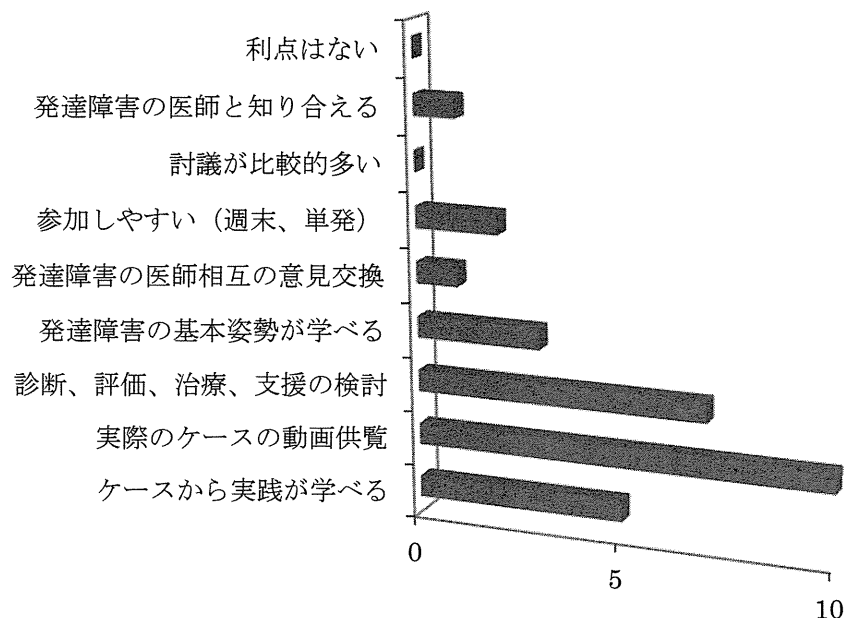


図5 ケースセミナーの利点（上位3つ、スタッフの12回答）

ケースセミナーの欠点（上位三つ、研修生25名）

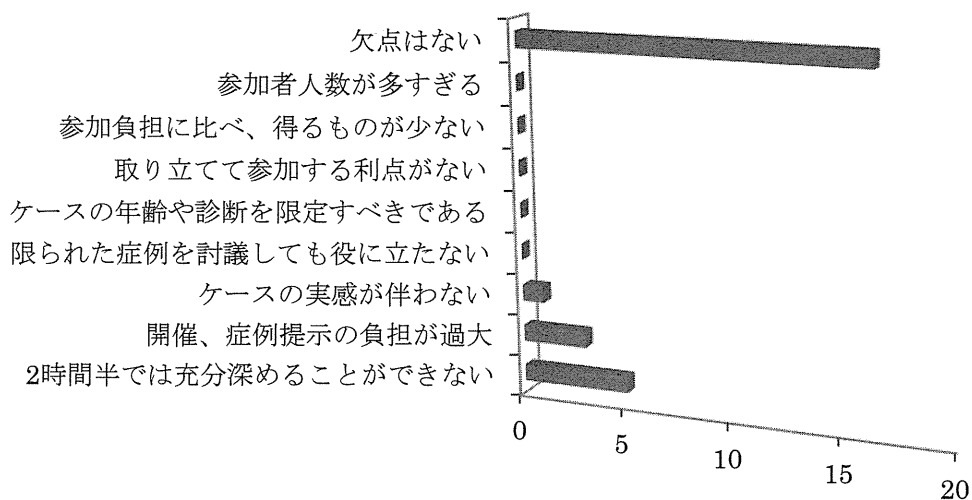


図6 ケースセミナーの欠点（上位3つ、研修生25名の研修後回答）

ケースセミナーの欠点（上位三つ、スタッフ12回答）

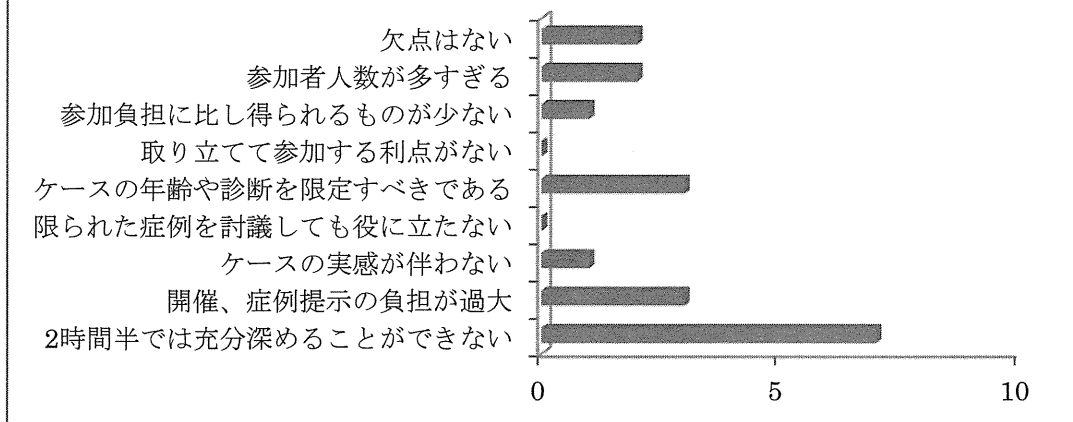


図7 ケースセミナーの欠点（上位3つ、スタッフの12回答）

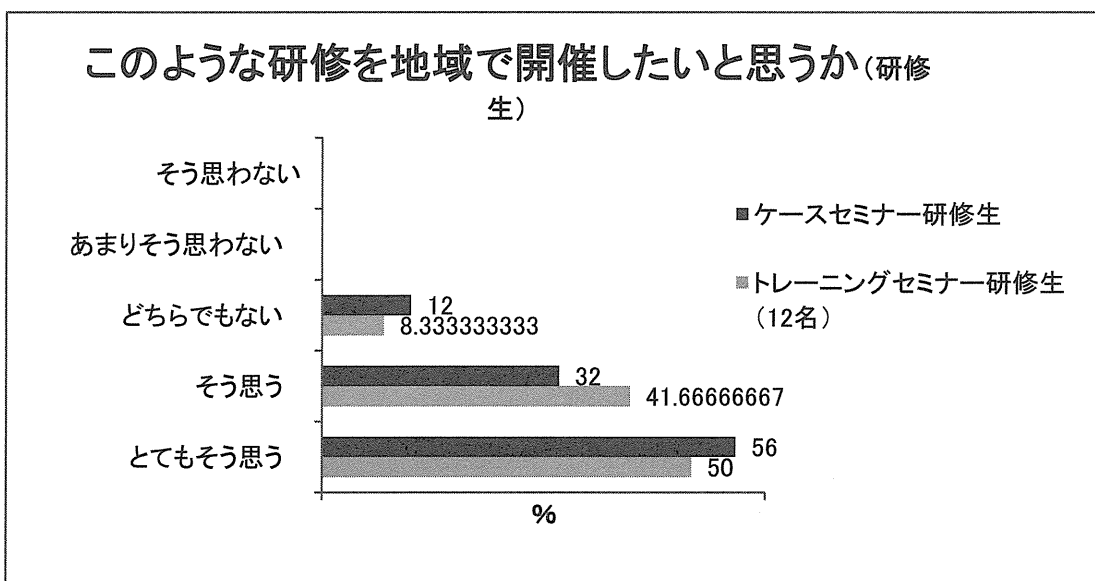


図8 今回のような研修を、地域で開催したいと思いますか（研修生）

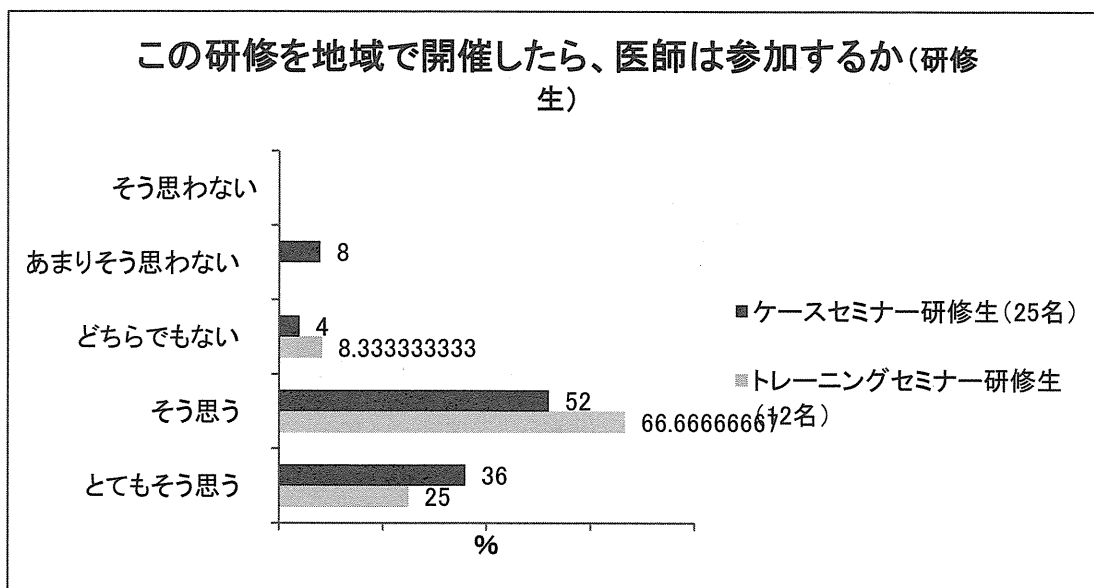


図9 今回のような研修を地域で開催したら、医師は参加するか(研修生)

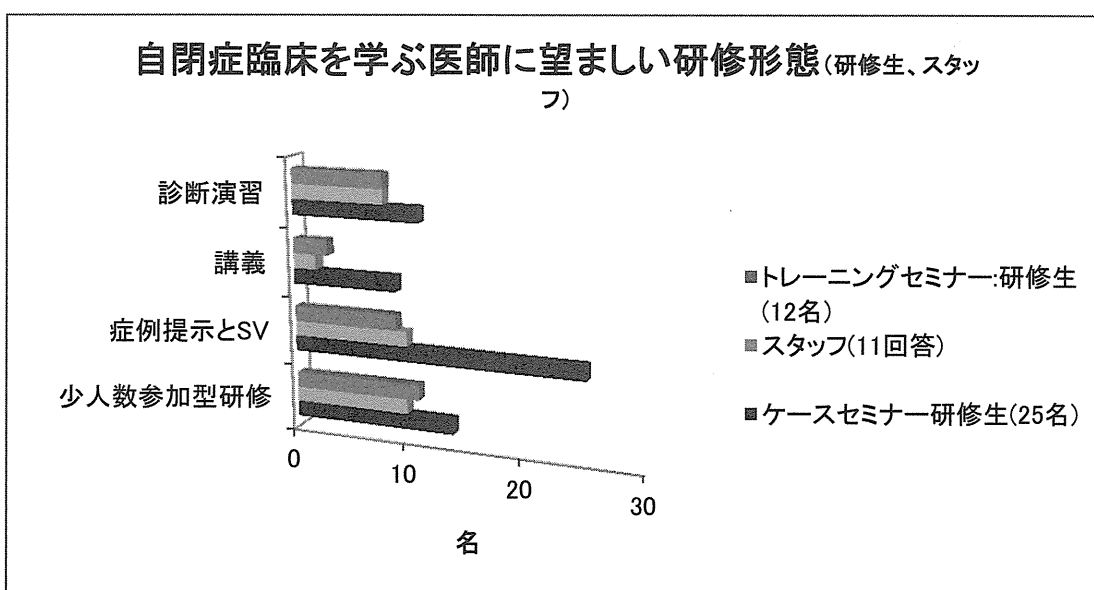


図10 自閉症臨床を学ぶ医師のための研修について、望ましい研修形態(複数回答可、研修生25名、スタッフ11回答、トレーニングセミナー研修生12名)

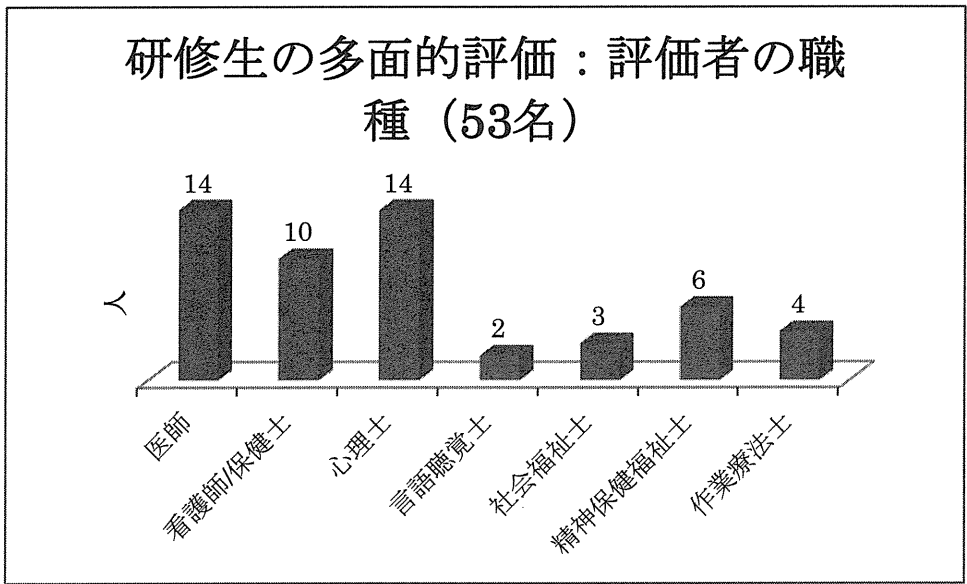


図 1 1 研修生の多面的評価：評価者の職種（53名）

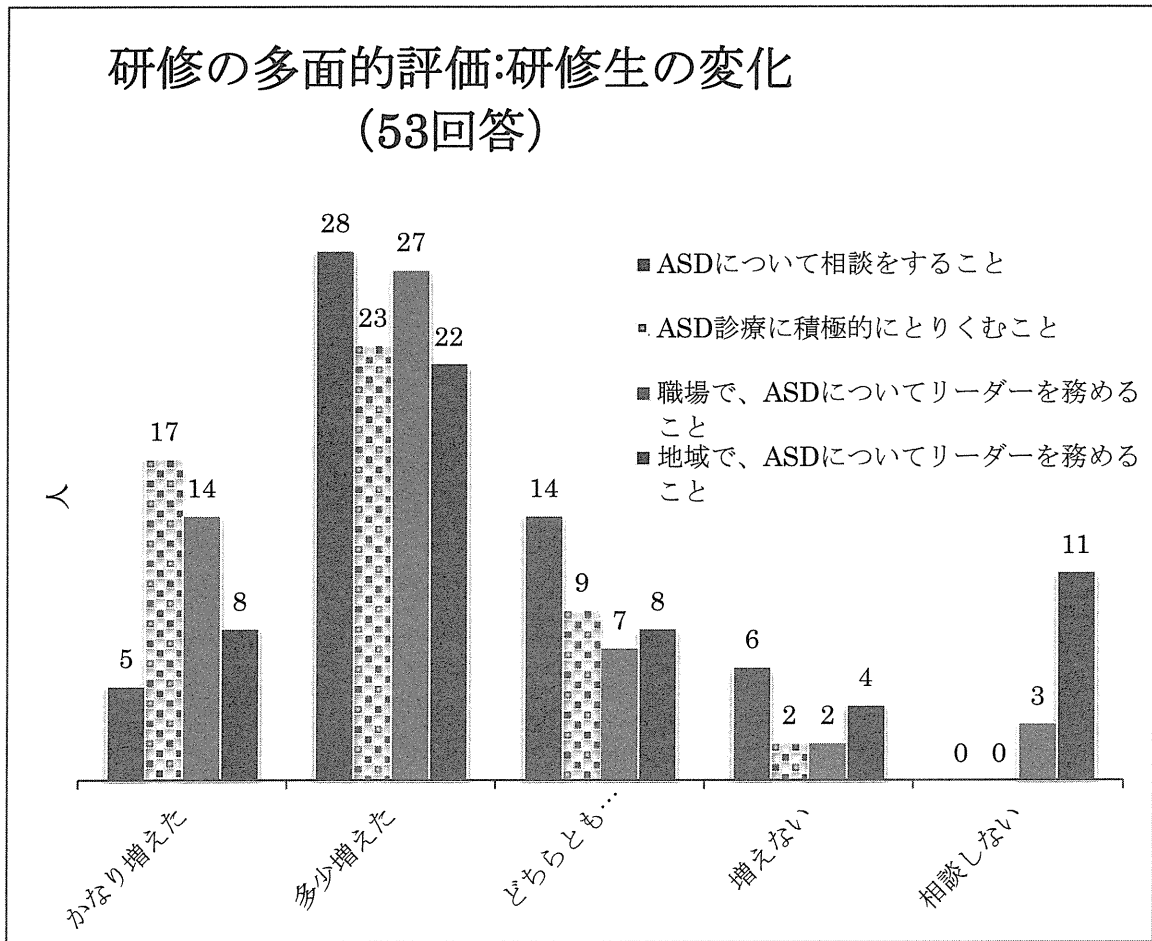


図 1 2 研修の多面的評価：研修前後の比較による研修参加医師の変化（53回答）

%

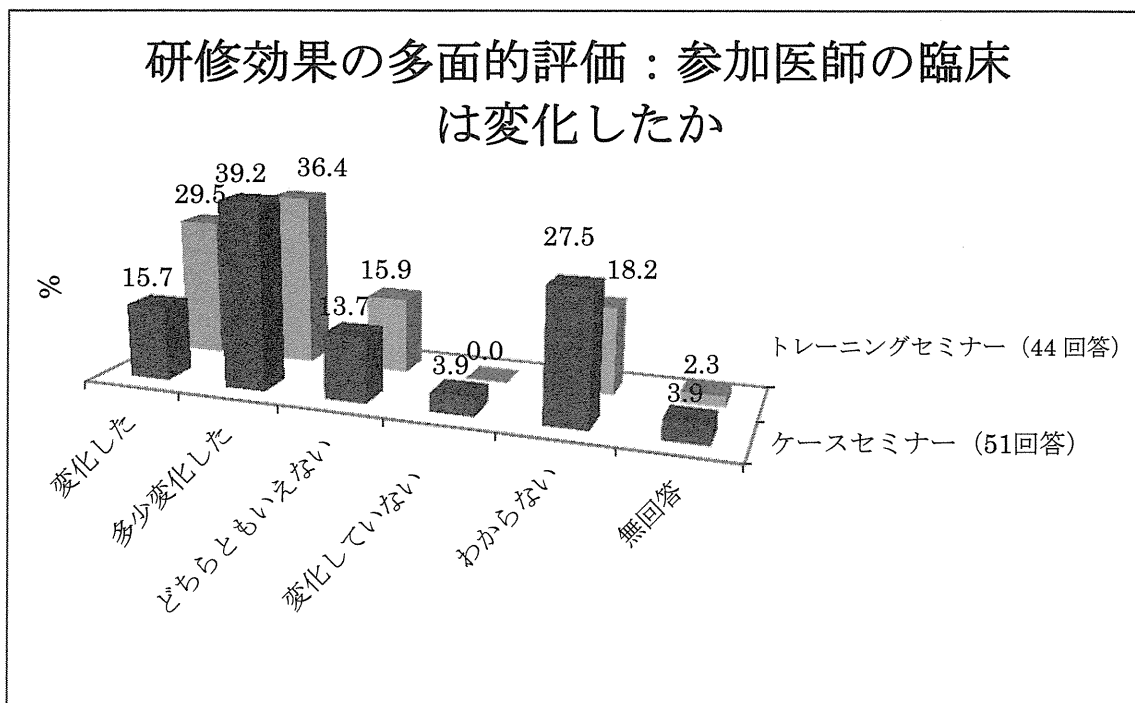


図 1 3 研修効果の多面的評価：研修参加医師の自閉症スペクトラム臨床は変化したか
(ケースセミナー51 回答とトレーニングセミナー44 回答)

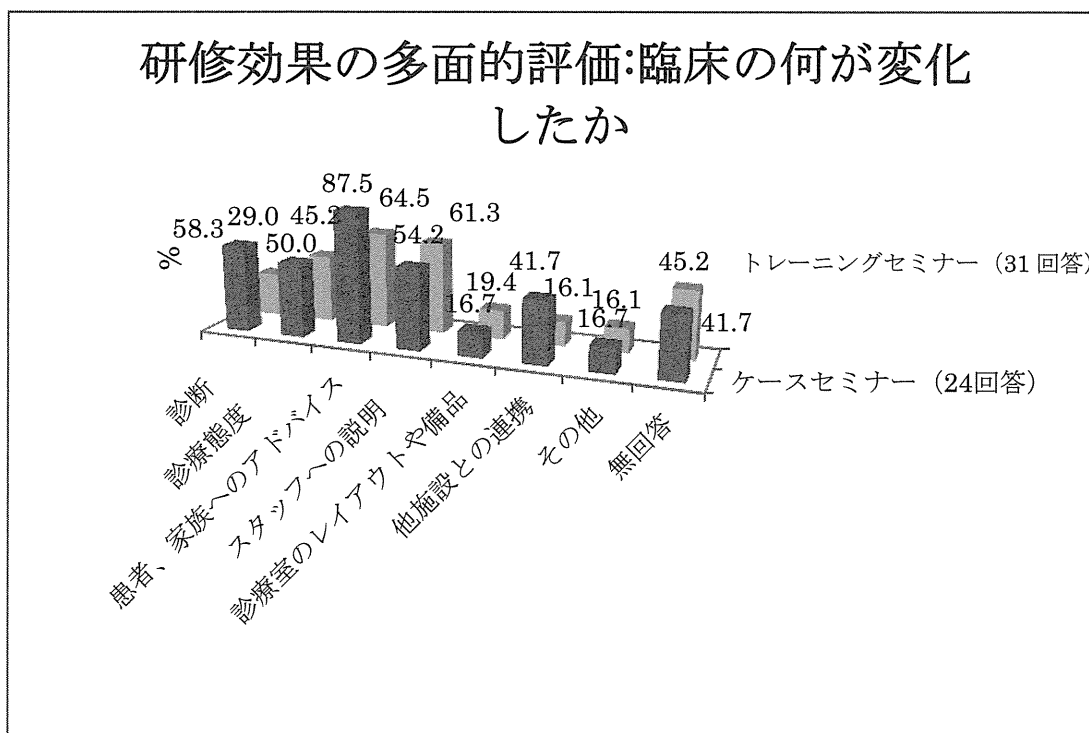


図 1 4 研修効果の多面的評価：研修参加医師の自閉症スペクトラム臨床は変化した場合、何が変化したか (ケースセミナー24 回答とトレーニングセミナー31 回答)

4. 評価（研究成果）

1) 達成度について

医師への効果的な研修法の開発を行うために、研修を行い、研修前、研修直後の評価を計画どおり実施した。

2) 研究成果の学術的意義について

発達障害の効果的な医師研修について、検討した研究は少なく、研修後の研修生についての多面的評価の検討はない。

3) 研究成果の行政的意義について

医師の研修について、その方法および効果について検討し、具体的方策の提言し、今後の医師研修のあり方を示した。

5. 結論

発達障害の症例検討型研修は、発達障害の専門医師のニーズが高く、研修効果の期待できる卒業後、専門研修であり、効果的な症例検討研修についての検討が望まれる。

6. 研究発表

1) 論文発表なし

2) 学会発表

医師研修プログラムの開発に関する研究—
少人数、参加型 TEACCH メソッドに基づいた
研修の効果判定 蜂矢百合子、内山登紀
夫他 第 106 回日本小児精神神経学会、静岡
岡

7. 知的所有権の出願・取得状況

なし

発達障害情報センターと発達障害者支援センターの情報共有と蓄積に関する研究

研究分担者 深津 玲子（国立障害者リハビリテーションセンター 研究所
発達障害情報・支援センター）

研究協力者 車谷 洋（同上）

研究要旨

本年度の研究では、データを蓄積・運用する上で必要な情報の整理を目的として、全国の発達障害者支援センターの人的資源、通信環境および情報共有ニーズなどに関する調査を実施した。発達障害者支援センターの通信環境、PC操作状況などのハード面は整備されており、情報共有を行う上での支障は少ないものと考えられた。また、発達障害者支援センター間での情報共有のニーズが高いことが明らかとなった。昨年度作成した会員制サイトで実現可能なニーズが多く、今後ソフト面の拡充が必要であると考えられた。

A. 研究目的

平成22年度の本研究事業において、発達障害情報センターウェブサイト内へ全国の発達障害者支援センター（以後支援センター）との情報共有と情報蓄積を目的として、会員制サイトを作成した。この会員制サイトは、一般的なインターネット通信環境があれば、利用は可能である。しかし、支援センター通信環境などを把握していないため、本会員制サイトの利用が可能な通信環境などのハード面が整備されているのかが明らかになっていない。また、会員制サイトの利用者となる支援センター職員が利用しやすい環境を提供する必要があるが、支援センター職員のPC操作能力などが明らかではない。よって、支援センターの通信環境や職員のPCスキルが会員制サイトの利用に支障がないかを調査する必要があると考えられる。

発達障害情報センターは、平成23年10月に「発達障害情報・支援センター」と名称変更され、全国の支援センターへの情報提供および情報共有などの支援を行うことが業務の一つとなった。よって、支援センターの希望する情報提供および情報共有ニーズ（情報ニーズ）について、発達障害情報・支援センターが把握し、整理することは円滑な情報共有のために重要である。

本研究は、1) 全国の支援センターの通信環境、職員のPC操作能力などを調査すること、2) 全国の支援センターの情報ニーズを把握することを目的とした。

B. 研究方法

【対象】

本研究では、発達障害者支援センター全国連絡協議会に参加している68箇所の支援センターを対象とした。

【方法】

平成23年12月1日～平成23年12月12日の期間で、68箇所の支援センターに対して、アンケート調査を実施した。

アンケート調査の内容には、支援センターの情報ニーズ、通信環境、および職員のPC操作能力などに関することを含めた。アンケート調査の質問項目は表1に示す。

アンケート調査には、昨年度作成した会員制サイトを利用した方法とE-mailを利用した方法を採用した。会員制サイトを利用した方法は発達障害者支援センター全国連絡協議会の幹事会に所属する支援センター13箇所を対象とし、残りの55箇所の支援センターにはE-mailを利用した方法での回答を求めた。

会員制サイトを利用した方法では、まず、会

員制サイト内にアンケート調査のページを作成し、その場にアンケートモジュールを使用してアンケートを作成した。また、会員制サイトで回答する支援センターには、あらかじめ会員制サイトへのログインIDおよびパスワードを配布した。次に、発達障害者支援センターが会員制サイトへログインを行い、アンケートの回答を行った。

E-mailを利用した方法では、Microsoft Word 2003にて作成したアンケート調査用紙をE-mailに添付して、メーリングリストにて配布した。

【分析】

アンケート調査項目は、Microsoft Excel 2003にて集計を行った。また、回答内容に偏りがあるのかを確認するために、カイ二乗検定を実施した。有意水準は5%未満とした。

(倫理面への配慮)

本研究では、個人情報や特定できるような識別情報を含んだデータでは扱わないため、倫理面への配慮は特に必要ない。

C. 研究結果

期間内の回答数は46件であり、回収率は67.6%であった。

会員制サイトを利用した方法での回答数は13件であり、回収率は100%であった。また、E-mailを利用した方法での回答数は33件であり、回収率は60.0%であった。

支援センター専用のパソコンについて、「5台以上」との回答が28件で最も多く、「4台」が7件、「1台」が7件、「3台」が4件であり、「なし」と回答した支援センターはなかった(図1)。また、支援センター専用のパソコンの台数には有意差があり($p<0.01$)、支援センター専用パソコンが5台以上ある傾向があった。

他部門と併用するパソコンについて、「なし」との回答が31件で最も多く、「5台以上」が5件、「1台」が5件、「3台」は3件、「4台」は2件であった(図1)。また、他部門と併用するパソコンの台数には有意差があり($p<0.01$)、併用パソコンがない傾向があった。

使用しているパソコンのOSについて、「Wind

ows XP」が32件で最も多く、「Windows7」は17件、「Windows Vista」は7件、「Windows98」は1件であった。回答の得られた全ての支援センターはOSにWindowsを使用しており、Macintoshを使用している支援センターはなかった(図2)。使用しているパソコンのOSの種類には有意差があり($p<0.01$)、Windows XPを使用している傾向があった。

インターネット閲覧ブラウザは「Internet Explorer」が45件で最も多く、「Firefox」が3件、「Safari」が1件、「Google Chrome」が1件、「その他」が1件であった(図3)。インターネット閲覧ブラウザには有意差があり($p<0.01$)、Internet Explorerが多い傾向にあった。

通信回線の種類について、「光回線」が18件で最も多く、「ADSL」が13件、「ISDN」が4件、「ダイヤルアップ」が3件、「CATV」が3件、「その他」が5件であった(図4)。通信回線の種類には有意差があり($p<0.01$)、光回線、ADSLが多い傾向にあった。

一日あたりのPCの操作時間について、「3時間以上」が38件で最も多く、「1~2時間」が7件、「0分」が1件であった(図5)。PC操作時間には有意差があり($p<0.01$)、3時間以上の操作時間が多い傾向であった。

職員のデータ入力操作について、「問題なし」が36件で最も多く、「サポートが必要」としたものが10件であった(図6)。職員のデータ入力操作には有意差があり($p<0.01$)、操作には問題のない傾向があった。

職員によるデータ入力について、「時間が必要」が33件で最も多く、「不可能」が11件、「可能」が2件であった(図7)。職員によるデータ入力には有意差があり($p<0.01$)、時間が必要が多い傾向にあった。

自支援センターの情報を他支援センターに公表することについて、「一部可能」が39件で最も多く、「可能」が6件、「不可能」が1件であった(図8)。次支援センターの公表には有意差があり($p<0.01$)、「一部可能」が多い傾向にあった。

自支援センターの情報を他支援センターに提供する内容について、「自支援センター事業紹介」が42件で最も多く、「実績報告書」が37件、

「自支援センターからのお知らせ」が35件、「自支援センター広報誌」が15件、「その他」が2件であった(図9)。「その他」を除いた項目でカイ二乗検定を実施した結果、自支援センターの情報を他支援センターに提供する内容には有意差があり($p < 0.01$)、「自支援センター広報誌」が少ない他の項目が多い傾向にあった。

他支援センターから知りたい情報について、「他支援センター事業紹介」が46件で最も多く、「実績報告書」が33件、「他支援センターからのお知らせ」が33件、「他支援センター広報誌」が27件、「その他」が4件であった(図10)。「その他」を除いた項目でカイ二乗検定を実施した結果、他支援センターから知りたい情報には有意差がなかった。

他支援センターに対してアンケートの実施について、「希望する」が26件で最も多く、「希望しない」が20件であった(図11)。希望の有無には有意差はなかった。

希望する支援センターが集計を実施するかについて、「行わない」が16件で最も多く、「行う」が10件であった(図12)。集計実施の有無には有意差がなかった。

他支援センターに対して直接質問を行うことについて、「希望する」が33件で最も多く、「希望しない」が13件であった(図13)。希望の有無には有意差があり($p < 0.01$)、希望するセンターが有意に多かった。

D. 考察

本研究では、発達障害者支援センターの通信環境、職員のPC操作能力などを調査すること、および発達障害者支援センターの情報ニーズを把握することを目的として、発達障害者支援センターに対してアンケート調査を実施した。

発達障害者支援センターの通信環境について、全ての支援センターが専用のPCを所有しており、インターネットへの接続環境を有していることが明らかとなった。また、通信回線は比較的通信速度の速い回線が多いことが分かった。会員制サイトはインターネットに接続していることが利用的前提となるが、この点に関して利用上問題となることはないものと考え

られる。また、通信速度の速い回線が多いことから、多少容量の大きいデータの送受信が可能であるとも考えられ、会員制サイトの内容を拡張することになったとしても、利用上の影響は少ないと推察される。

発達障害者支援センターが利用しているパソコンのOSは全支援センターがWindowsであり、インターネットの閲覧ブラウザはInternet Explorerが多かった。会員制サイトを構成しているNetcommons ver2.1で動作確認されているソフトウェア環境には、Windows OS下でのInternet ExplorerやFirefoxの利用が含まれている。よって、この点からも会員サイトの利用に支障は少ないものと考えられる。

発達障害者支援センター職員のPC操作能力に関して、支援センターでの一日の操作時間は3時間以上が多く、パソコンでのデータ入力操作も問題ない傾向にあり、データ入力に関する能力には問題が少ないものと考えられる。しかし、データ入力の依頼に対しては時間を要するとの回答が多い傾向にあった。発達障害者支援センター職員はパソコンを操作する能力は高いものと推察されるが、日々の業務にてパソコンを使用することが多く、会員サイトのデータ入力のための時間を確保することが困難であるものと考えられる。よって、会員サイトへのデータ入力に際して、選択式の入力方法など簡便な入力方法を採用して、データ入力に時間がかからないような工夫が必要であると考えられる。

発達障害者支援センターの情報の公表について、一部可能であるとする支援センターが多い傾向にあった。公表可能な情報としては、事業紹介、報告書などが多い傾向にあった。しかし、他支援センターから知りたい情報には有意差はなく、様々な情報収集を行いたいものと考えられた。

他の発達障害者支援センターに対するアンケート実施の希望について、希望する支援センターと希望しない支援センターには有意差はなく、有意な傾向はなかった。また、アンケートの集計にも有意差はなく、有意な傾向はなかった。他の発達障害者支援センターに直接質問をする希望について、希望する支援センターが

希望しない支援センターより有意に多かった。会員サイト制サイトには、会員に対するアンケート機能や会員同士の掲示板機能が含まれており、本質問項目はこれらの機能に関する質問であった。すなわち、アンケートは実施希望の有意な傾向はなかったが、掲示板機能は利用を希望する支援センターが有意に多かったということになる。アンケートは調査や研究を目的とした利用が主であり、双方向性の情報交換という点では不向きであると考えられる。一方で、掲示板機能は双方向性での情報交換を目的とした利用が主である。以上より、多くの発達障害者支援センターは他の発達障害者支援センターとの双方向性の情報交換を希望しているものと考えられる。よって、発達障害者支援センター同士での双方向性の情報交換ならびに情報提供が可能となるツールを提供することが、発達障害者支援センターのニーズに合致するものと考えられる。

E. 結論

1. 発達障害者支援センターの通信環境、職員のPC操作能力などを調査すること、および発達障害者支援センターの情報ニーズを把握することを目的として、発達障害者支援センターに対しアンケート調査を実施した。
2. 68箇所の発達障害者支援センターに調査を実施した結果、回答数は46件であり、回収率は67.6%であった。

3. 発達障害者支援センターの通信環境は整備されており、職員のPC操作能力は高いことが分かった。
4. 発達障害者支援センターの情報ニーズは、他支援センターの所有している様々な情報であることが分かった。
5. 発達障害者支援センターの会員制サイトへのニーズとして、双方向性の情報交換があると考えられ、今後、発達障害者支援センター同士での双方向性の情報交換ならびに情報提供が可能となるツールの提供が必要であると考えられた。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

1. 論文発表

なし

2. 学会発表

(発表誌名巻号・頁・発行年等も記入)

なし

H. 知的財産権の出願・登録状況

(予定を含む。)

1. 特許取得 なし
2. 実用新案登録 なし
3. その他 なし

表1 アンケート調査項目

質問 1: 貴支援センターではインターネットに接続している支援センター専用のパソコンが何台ありますでしょうか。

なし(専用パソコンはない) 1台 2台 3台 4台 5台以上

質問 2: 貴支援センターではインターネットに接続している他部門と併用するパソコンが何台ありますでしょうか。

なし(併用パソコンはない) 1台 2台 3台 4台 5台以上

質問 3: 使用しているパソコンの OS(オペレーティングシステム)はどれでしょうか。

Windows 7 Windows Vista Windows XP Windows 2000 Windows Me Windows 98 Mac OS X Mac OS 9 Mac OS 8 Mac OS 7 その他

質問 4: インターネット閲覧に使用しているブラウザはどれでしょうか。

Internet Explorer Mozilla Firefox Safari Google Chrome Opera その他

質問 5: インターネットに接続している通信回線はどれでしょうか。

電話回線(ダイヤルアップ回線) ISDN 回線 ADSL 回線 CATV 回線 光回線 高速モバイル通信 その他

質問 6: 貴支援センターではパソコン操作時間は一日あたりどれくらいでしょうか。(職員の平均でも今回回答される方の場合でも結構です)

まったく操作しない日もある 30分以内 1時間~2時間 3時間以上

質問 7: 貴支援センターの職員はパソコンでデータを入力する操作に慣れているかどうか教えてください。

全員問題なく操作できる 慣れている職員の同席が必要である 得意な職員がいない

質問 8: 貴支援センターの職員に対し各種データの入力を担当していただくことは可能でしょうか。

可能である 入力完了期限に、時間的余裕があれば可能である 不可能である

質問 9: 入力いただいた貴支援センターの情報を他の支援センターに公表することは可能でしょうか。

全て可能 内容によって、一部可能 不可能

質問 10: 貴支援センターの情報を他の支援センターへ提供するとすればどんな内容でしょうか。(複数選択可)

実績報告書 貴支援センター実施事業の紹介 貴支援センター広報誌 貴支援センターからのお知らせ その他

質問 11: 他の支援センターの情報を知りたい、見たいとすればどんな内容でしょうか。(複数選択可)

実績報告書 他の支援センターの実施事業の紹介 他の支援センターの広報誌 他の支援センターからのお知らせ その他

質問 12: 他の支援センターに対してアンケートができるようにしたいでしょうか。

希望する 希望しない

質問 13: 質問 12 で希望するを選ばれた場合貴支援センターが集計や取りまとめをされますでしょうか。

行う 行わない(発達障害情報・支援センターが取りまとめをしてほしい)

質問 14: 他の支援センターに対して直接質問ができるようにしたいでしょうか。

希望する 希望しない(発達障害情報・支援センターが窓口となってほしい)

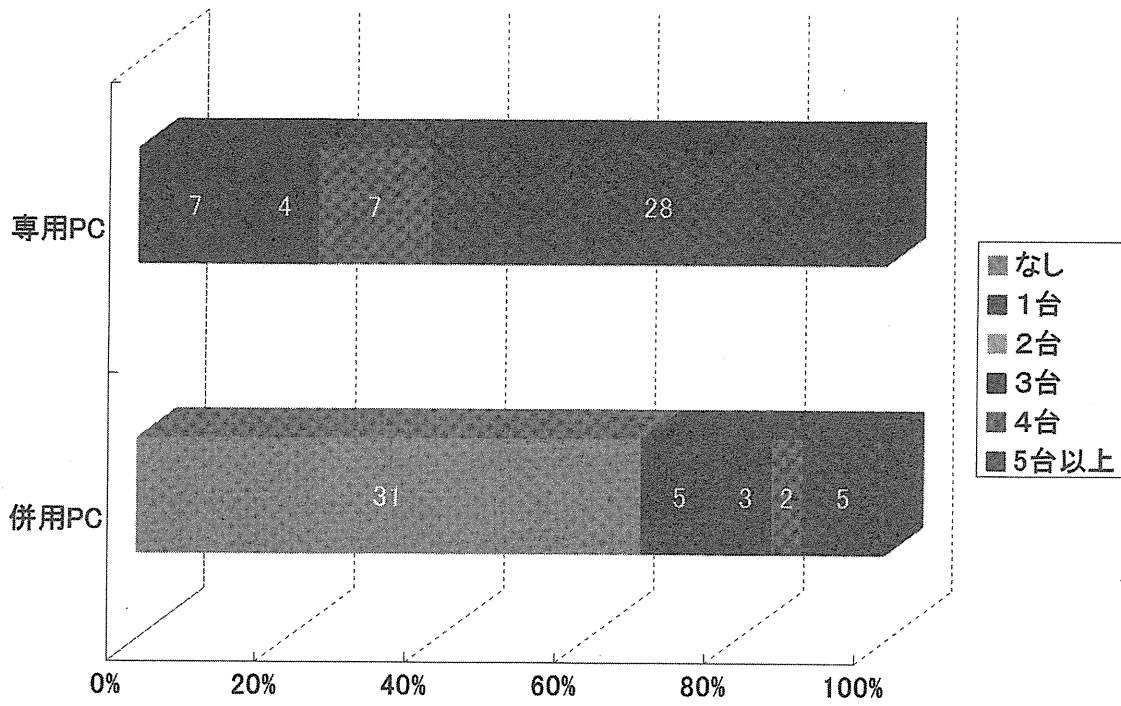


図1 専用パソコンと併用パソコン利用状況

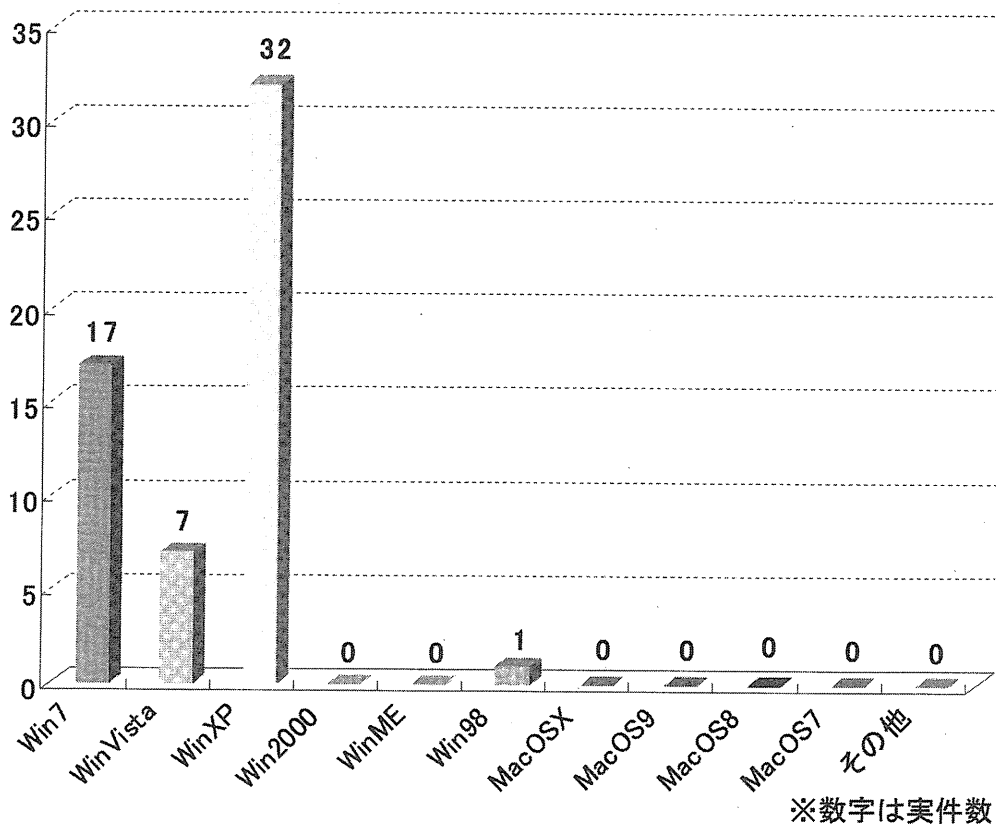


図2 オペレーティングシステム(OS)利用状況

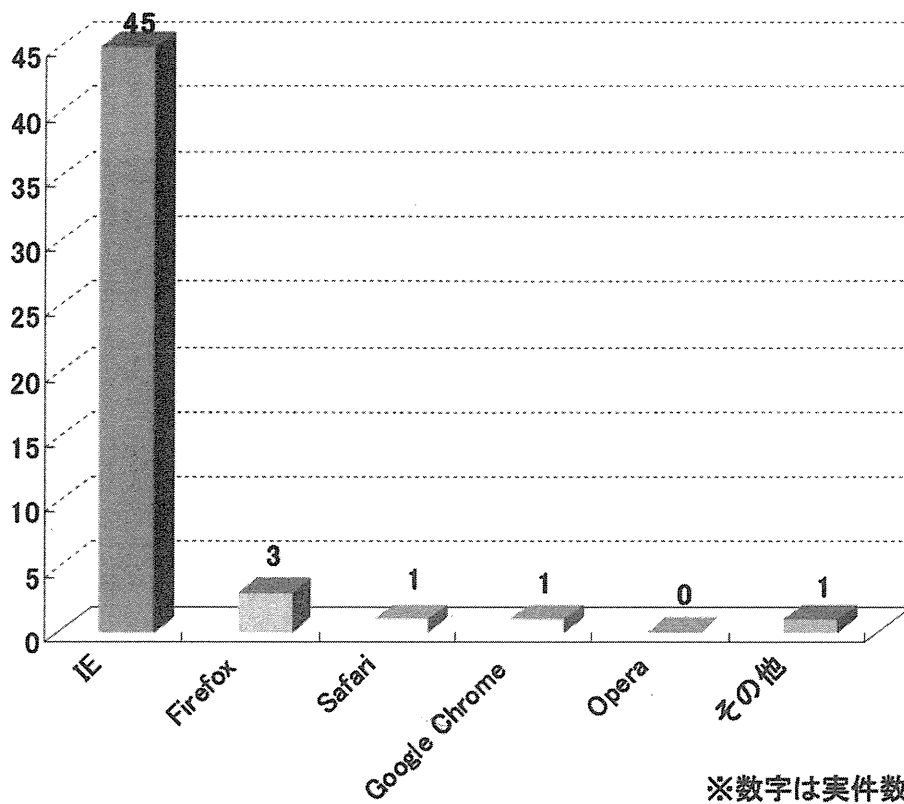


図3 インターネット閲覧ブラウザ利用状況

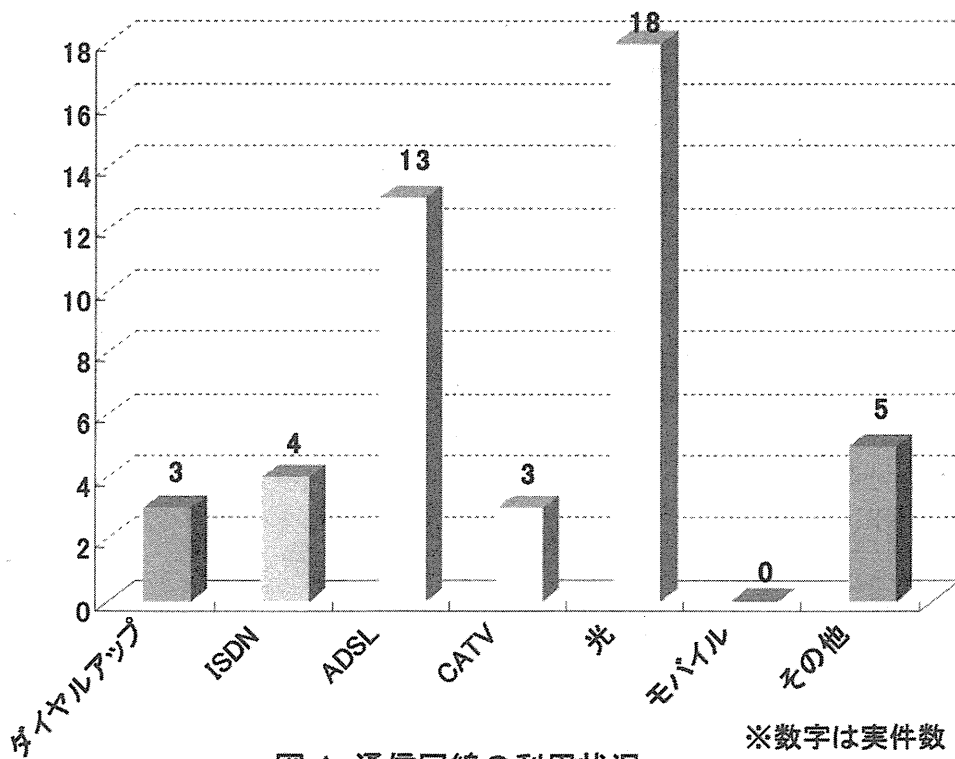


図4 通信回線の利用状況

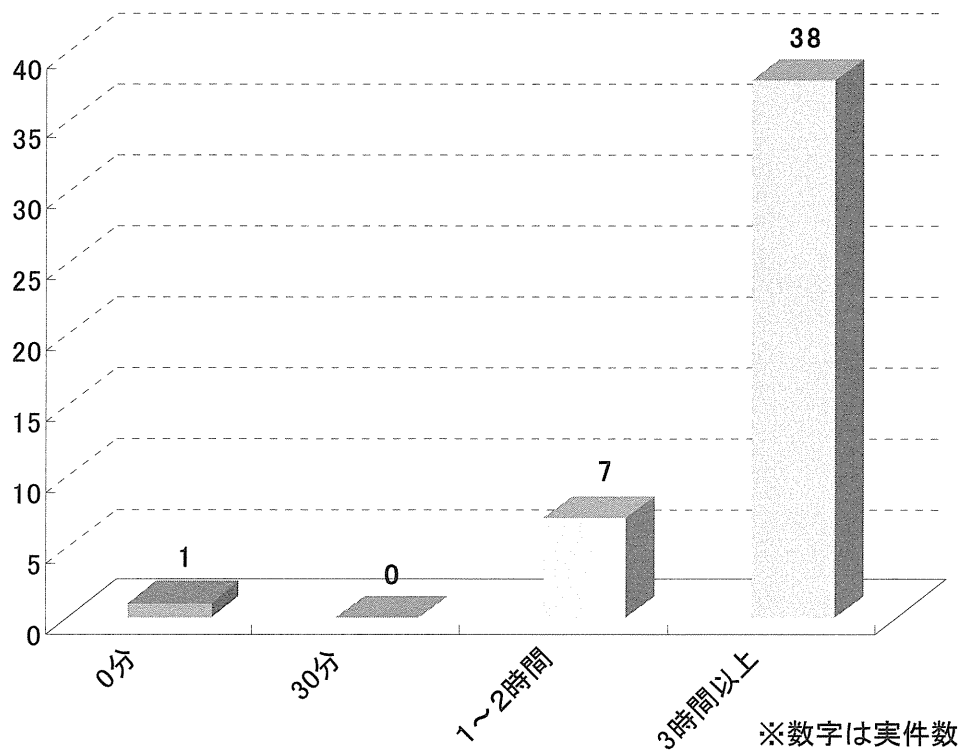


図5 1日あたりのパソコン操作時間

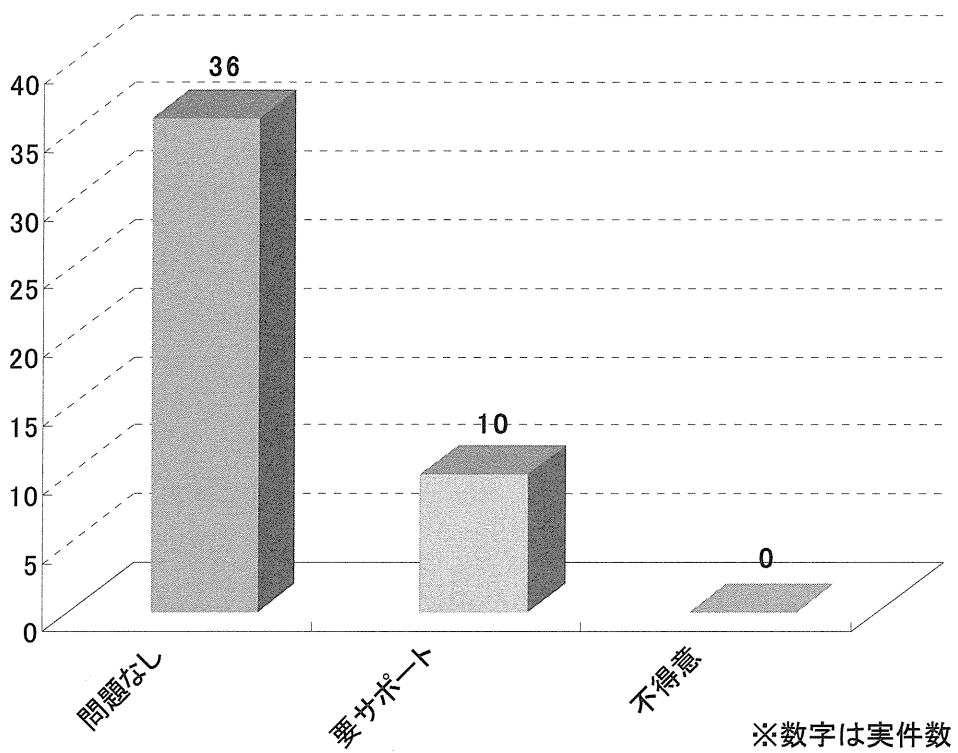


図6 職員のデータ入力操作

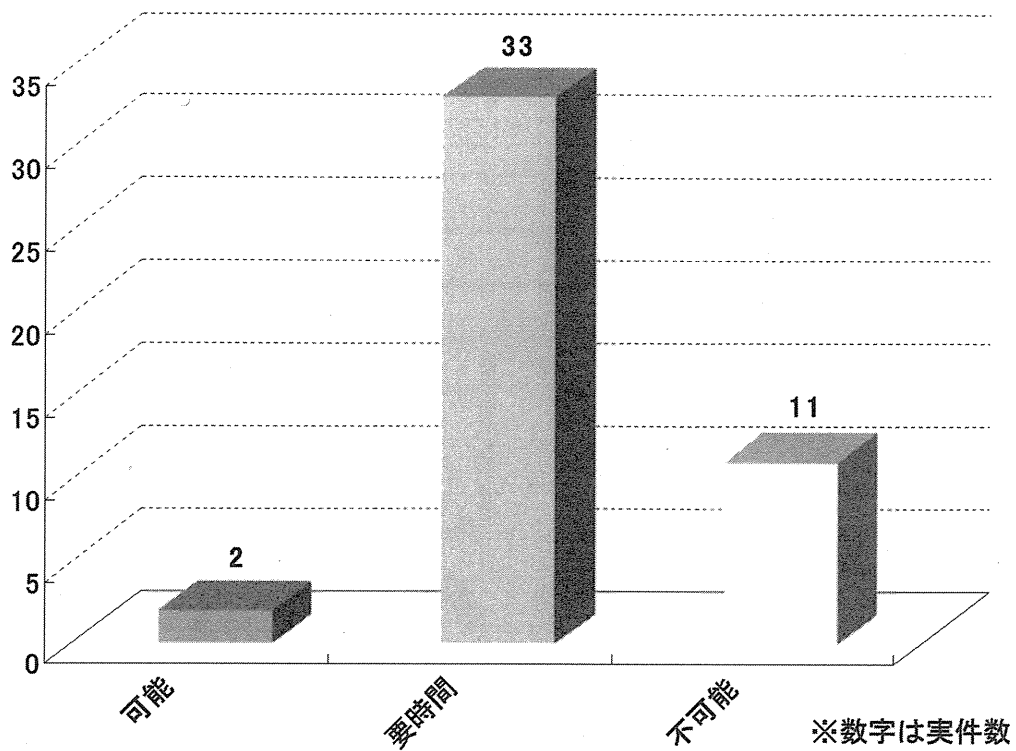


図7 職員によるデータの入力について

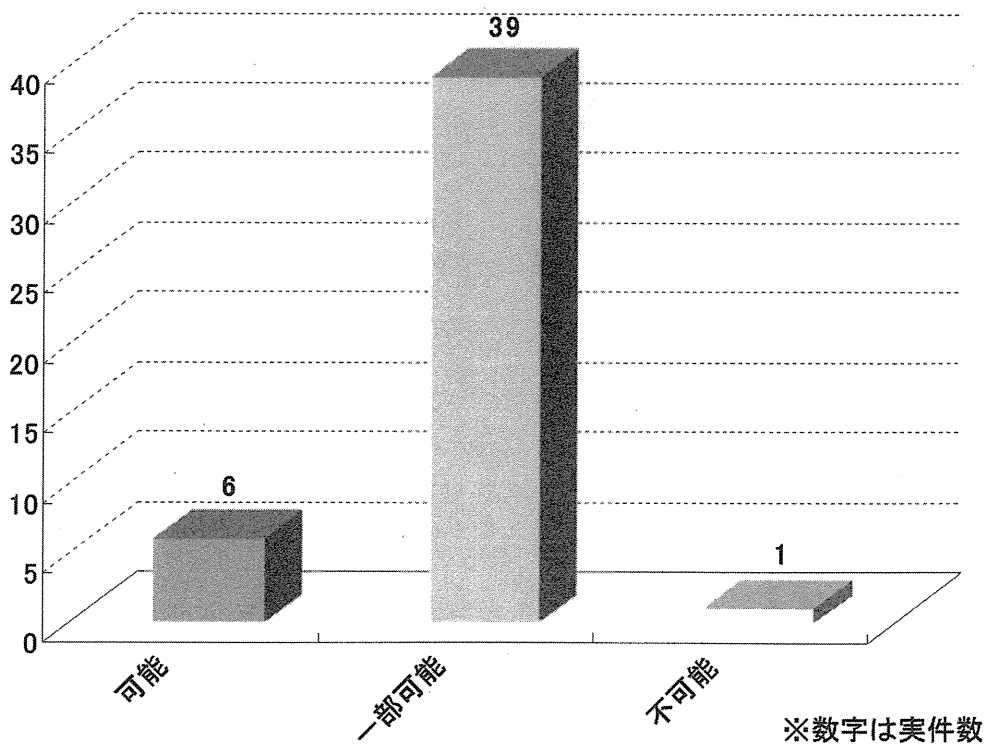


図8 自支援センターの情報の公表について

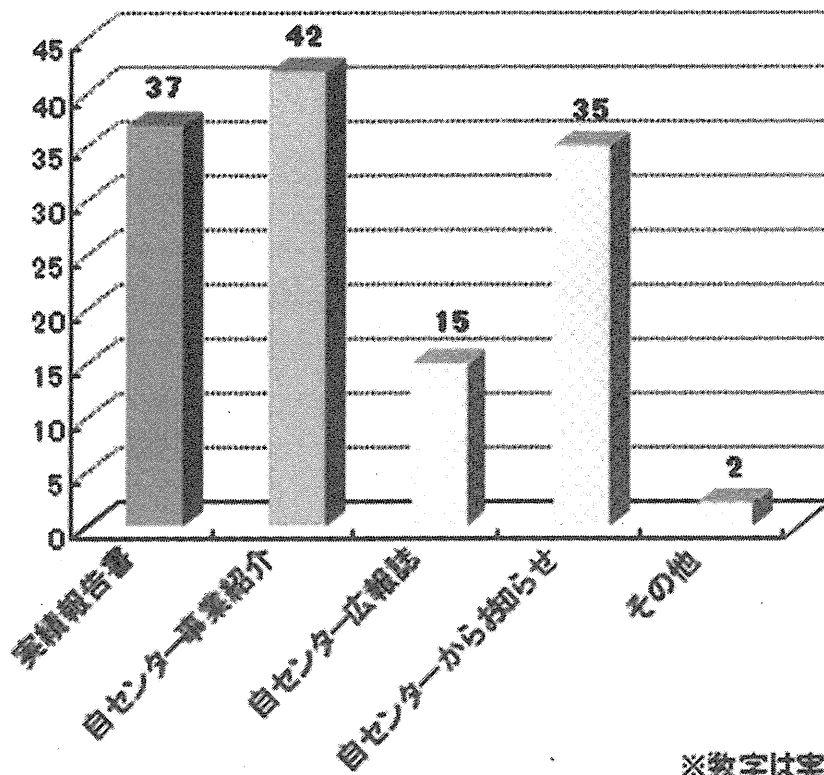


図9 自支援センターの公表可能な情報

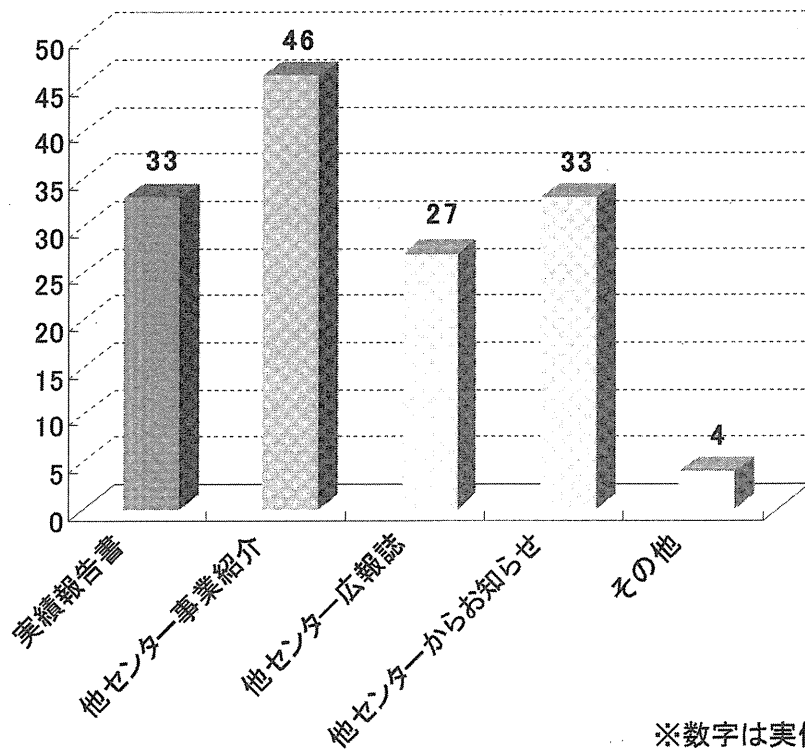
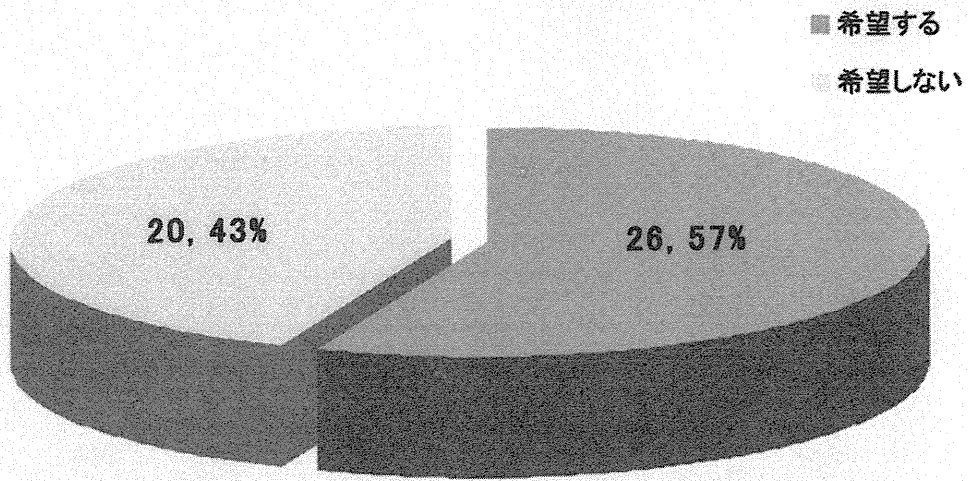
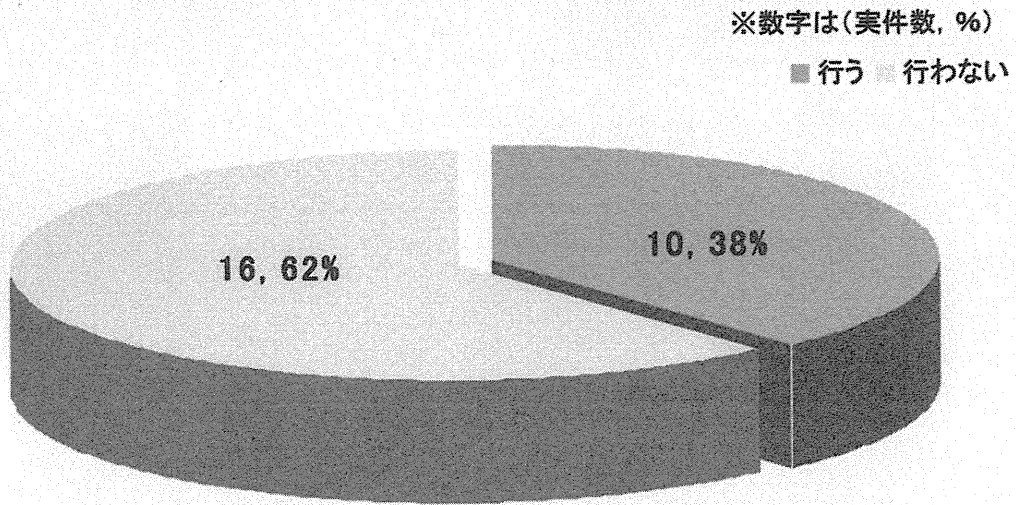


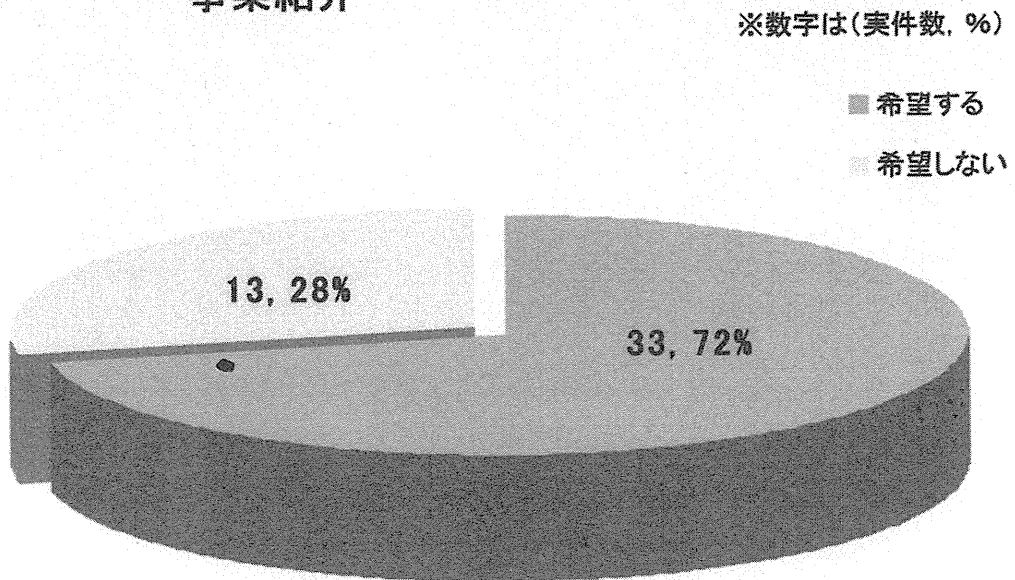
図10 他支援センターから知りたい情報



センター



事業紹介



自

※数字は(実件数, %)

Ⅲ. 研究成果の刊行に関する一覧表

研究成果の刊行に関する一覧表(1 / 11)

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
内山登紀夫	TEACCH の考え方とその実際	,宮田広善編	発達支援の技法と理論	協同医書出版社	東京	2011	112-120
内山登紀夫	アスペルガー症候群、ウィング,L、クレーン症状、自閉症スペクトラム	神庭重信、中谷陽二他編	現代精神医学事典	弘文堂	東京	2011	14、87、262、443
神尾陽子	多動症候群.	井村裕夫総編集.福井次矢,辻省次編集	症候群ハンドブック	中山書店	東京	2011	145
神尾陽子	アスペルガー症候群.	井村裕夫総編集.福井次矢,辻省次編集	症候群ハンドブック	中山書店	東京	2011	146-147
神尾陽子	カナー症候群.	井村裕夫総編集.福井次矢,辻省次編集	症候群ハンドブック	中山書店	東京	2011	148
井口英子, 神尾陽子	広汎性発達障害の早期徴候.	松下正明	精神医学キーワード事典	中山書店	東京	2011	9-11
<u>Kamio, Y.</u> , Tobimatsu, S., & Fukui, H	Developmental disorders.	J. Decety, J. Cacioppo	The Oxford Handbook of Social Neuroscience (Oxford Library of Psychology)	Oxford University Press	Oxford	2011	.848-858
Yamazaki, T., Fujita, T., <u>Kamio, Y.</u> , & Tobimatsu, S	Motion perception in autism spectrum disorder.	A. M. Columbus	Advances in Psychology Research, Vol.82, Motion Perception.	Nova Science Publishers	New York	2011	197-211

研究成果の刊行に関する一覧表(2 / 11)

書籍

著者氏名	論文タイトル名	書籍全体の 編集者名	書籍名	出版社名	出版地	出版年	ページ
高橋秀俊, 神尾陽子, 長尾圭造	思春期の子どもの 災害反応.	藤森和美, 前田正治	大災害と子ど ものストレス	誠信書房	東京	2011	21-23
神尾陽子	子どものこころの 発達.	五十嵐隆	からだの科学: 子どもの発育・ 発達と病気	日本評論 社	東京	2011	8-11
神尾陽子	広汎性発達障害(自 閉症スペクトラム 障害).	樋口輝彦, 市川宏伸, 神庭重信, 朝田隆, 中 込和幸	今日の精神疾患 治療指針	医学書院	東京	2012	295-298
神尾陽子	広汎性発達障害/ア スペルガー症候群 以外.	「臨床精神 医学」編集 委員会	精神科・わたし の診療手順. 臨 床精神医学第40 巻増刊号	アークメ ディア	東京	2011	354-356
神尾陽子	CHAT (幼児期自閉 症チェックリスト).	日本自閉症 スペクトラ ム学会	自閉症スペクト ラム辞典	教育出版, 中山書店	東京	2012	213
吉田友子		単著	自閉症・アスペ ルガー症候群「 自分のこと」の おしえ方	学研	東京	2011	1~126
吉田友子	子どもが自尊感情 をもって生きるこ とを支援する	青木省三, 村上伸治	専門家から学ぶ 児童・青年期患 者の、診方と対 応	医学書院	東京	2012	44~51
辻井正次		辻井正次 (編)	特別支援教育 実践のコツ: 発 達障害のある子 の〈苦手〉を〈 得意〉にする	金子書房	東京	2011	